

(様式第1号)

令和 元年 6月 30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領域名： リハビリテーションに関する領域

科目名： 生活支援のための運動学

単位数： 2単位

認証申請する研修の名称： 生活支援のための運動学（認定介護福祉士養成研修）

団体名： 一般社団法人愛知県介護福祉士会

団体事務所の所在地： 〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内

電話： 052-202-8260

FAX： 052-202-8280

E-mail： info@aichi-kaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者： 会長 下山久之 印

申請責任者： 下山久之

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	2018年10月31日
申請団体名	一般社団法人愛知県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 下山久之
申請責任者職名	会長 下山久之
申請責任者氏名	下山久之
団体住所	〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内
同 Tel・Fax	Tel : (052)-(202)-(8260)
メールアドレス	Fax : (052)-(202)-(8280) E-mail <u>info@aichi-kaigo.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のための運動学 (2単位)
申請する研修名	生活支援のための運動学 (認定介護福祉士養成研修)
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のための運動学	
(1) 提供する研修について		
研修名	生活支援のための運動学 (認定介護福祉士養成研修)	
研修目標	○介護福祉士として生活支援に必要な運動整理を理解し、支援することができる力を習得する	
到達目標	<p>① 筋・骨・関節など運動器系や脳・脊髄・末梢神経など神経系の解剖・生理機能を理解し、支援に活用できる。</p> <p>② 関節可動域や関節運動などヒトの基本的な動きについて理解し、支援に活用できる。</p> <p>③ 日常の諸動作の中で、身体各部の相互関係を理解し、支援に活用できる。</p>	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<p>課題学習 (5 時間)</p> <p>1. 身体表面のランドマークの名称 (1 時間)</p> <p>2. 骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理 (1 時間)</p>	<p>課題学習 (5 時間)</p> <p>1 身体表面のランドマークの名称 (1 時間)</p> <p>テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』『標準理学療法学・作業療法学 運動学』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体ならびに利用者の身体に即して、理解を深める。</p> <p>○基本動作の分析が理解しやすいように、身体表面から触診可能な身体部位を確認する。</p> <p>○体表から触診できる、主要な骨、筋の部位を確認し、可能な限り触診を行う。</p> <p>・肩甲骨、肩関節、肘関節、手関節、手部、背部、腹部、脊柱、骨盤帯、股関節、膝関節、足関節など</p> <p>2 骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理 (1 時間)</p> <p>テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』『標準理学療法学・作業療法学 運動学』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体に即して、理解を進める。自分自身の身体ならびに利用者の身体に即して、理解を深める。</p> <p>○運動のメカニズムを理解するために、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理を確認する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○骨の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・骨の機能、骨の分類、骨の構造、骨の生成 ○関節の機能と構造 <ul style="list-style-type: none"> ・関節の機能、形態による分類、関節の構造 ○筋肉の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉の種類、骨格筋の形状。骨格筋の収縮、筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋収縮の力学的特性 ○神経系の伝導路
<p>3. 内部器官の運動時の生理 (1時間)</p>	<p>3 内部器官の運動時の生理 (1時間)</p> <p>テキスト『標準理学療法学・作業療法学運動学』『シンプル理学療法学シリーズ運動学テキスト』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。</p> <p>○運動による身体活動変化を理解するために、内部器官の運動時の解剖・生理を確認する。</p> <p>○運動と呼吸</p> <p>○運動と循環器系の機能</p> <p>○運動と体温調節</p>
<p>4. 運動の基本的な力学的考え方 (モーメントなど) (1時間)</p>	<p>4 運動の基本的な力学的考え方 (モーメントなど) (1時間)</p> <p>テキスト『日常生活活動の分析ー身体運動学的アプローチ』『日常生活活動のキネシオロジー』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。</p> <p>○身体動作能力の変化に応じた動作介助法を理解するために、運動の基本的な力学的考え方を確認する。</p> <p>○基本動作の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作の種類、身体の運動と重心線、重心と支持基底面、関節周りのモーメント </p> <p>○基本動作の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・分析の基本、動作の把握、支持基底面の変化、バランス能力の考え方、関節運動と活動する筋、動作の相 </p> <p>○動作分析の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・寝返り動作の分析、起き上がりの分 </p>

<p>5. 摂食・嚥下における解剖・運動生理 (1時間)</p> <p>集合学習 (5時間)</p> <p>1. 身体表面のランドマークの名称 (1時間)</p>	<p>析、立ち上がりの分析</p> <p>5 摂食・嚥下における解剖・運動生理 (1時間)</p> <p>テキスト『日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。</p> <p>○咀嚼・嚥下機能のメカニズムを理解するために摂食・嚥下における解剖・運動生理を確認する。</p> <p>○咀嚼運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節の構造と運動、咀嚼運動に関わる筋 <p>○嚥下運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔の構造、咽頭及び喉頭の構造、嚥下に関わる筋と運動 ・舌の筋、口蓋の筋、咽頭の筋 <p>○嚥下のメカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔期、咽頭期、食道期 <p>集合学習 (5時間)</p> <p>8:45～9:00 オリエンテーション</p> <p>9:00～9:45 担当：阿部</p> <p>1 身体表面のランドマークの名称 (1時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』『標準理学療法学・作業療法学 運動学』について、講義形式での解説後、受講生同士で触診し、理解を深める。</p> <p>○基本動作の分析が理解しやすいように、身体表面から触診可能な身体部位を確認する。</p> <p>○体表から触診できる、主要な骨、筋の部位を確認し、可能な限り触診を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肩甲骨、肩関節、肘関節、手関節、手部、背部、腹部、脊柱、骨盤帯、股関節、膝関節、足関節など <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 20分 (受講生同士で触診し確認) ●フィードバック講義 10分
---	---

	<p>2. 骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理 (1時間)</p>	<p>9:45~10:30 担当:阿部</p> <p>2 骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理 (1時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』『標準理学療法学・作業療法学 運動学』について、講義形式での解説後、受講生同士で触診し、理解を深める。</p> <p>○運動のメカニズムを理解するために、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理を確認する。</p> <p>○骨の構造と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨の機能、骨の分類、骨の構造、骨の生成 <p>○関節の機能と構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節の機能、形態による分類、関節の構造 <p>○筋肉の構造と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉の種類、骨格筋の形状。骨格筋の収縮、筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋収縮の力学的特性 <p>○神経系の伝導路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 20分 (受講生同士で触診し確認) ●フィードバック講義 10分 <p>10:30~10:45 休憩</p> <p>10:45~11:30 担当:阿部</p> <p>3 内部器官の運動時の生理 (1時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『標準理学療法学・作業療法学 運動学』『シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト』について、講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○運動による身体活動変化を理解するために、内部器官の運動時の解剖・生理を確認する。</p> <p>○運動と呼吸</p> <p>○運動と循環器系の機能</p> <p>○運動と体温調節</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 20分 ●フィードバック講義 10分
	<p>3. 内部器官の運動時の生理 (1時間)</p>	

<p>4. 運動の基本的な力学的考え方（モーメントなど）（1時間）</p>	<p>11：30～12：15 担当：阿部</p> <p>4 運動の基本的な力学的考え方（モーメントなど）（1時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ』『日常生活活動のキネシオロジー』について、講義形式での解説後、受講生同士、お互いの動作について分析を行い、さらに課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○身体動作能力の変化に応じた動作介助法を理解するために、運動の基本的な力学的考え方を確認する。</p> <p>○基本動作の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作の種類、身体の運動と重心線、重心と支持基底面、関節周りのモーメント <p>○基本動作の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析の基本、動作の把握、支持基底面の変化、バランス能力の考え方、関節運動と活動する筋、動作の相 <p>○動作分析の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝返り動作の分析、起き上がりの分析、立ち上がりの分析 <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 20分</p> <p>●フィードバック講義 10分</p> <p>12：15～13：15 昼食休憩</p>
<p>5. 摂食・嚥下における解剖・運動生理（1時間）</p>	<p>13：15～14：15 担当：阿部</p> <p>5 摂食・嚥下における解剖・運動生理（1時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ』について、講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○咀嚼・嚥下機能のメカニズムを理解するために摂食・嚥下における解剖・運動生理を確認する。</p> <p>○咀嚼運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎関節の構造と運動、咀嚼運動に関わる筋 <p>○嚥下運動</p>

	<p>6. 研修振り返り</p> <p>7. 筆記試験</p> <p>8. 事務連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の構造、咽頭及び喉頭の構造、嚥下に関わる筋と運動 ・舌の筋、口蓋の筋、咽頭の筋 ○嚥下のメカニズム ・口腔期、咽頭期、食道期 ●導入講義 15分 ●演習 20分 ●フィードバック講義 10分 <p>14：15～14：30 休憩</p> <p>14：30～14：45</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研修振り返り <p>14：45～15：45</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筆記試験（60分） <p>15：45～16：00</p> <ul style="list-style-type: none"> ●結果発表の方法、今後の研修の流れ等
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> ■集合学習（集合研修）5時間 ■課題学習（通信研修）5時間 <p>先に課題学習（通信研修）5時間を行い、その課題（レポート等）を事前に事務局に提出し、集合学習（集合研修）5時間では、課題学習で取り組んだレポートを基にしたグループワーク等の演習を交えて進めていく。</p>	
研修時間	10時間（集合学習として5時間、課題学習として5時間）	
修了要件	<p>課題学習における課題を提出し、集合学習のすべての時間に参加し、終了検定課題（筆記試験）で合格基準を満たしていることを確認する。ただし、やむを得ない理由での遅刻・早退がある場合、補講又はレポート提出をもってその不足分を補うこととする。やむを得ない事情による遅刻・早退は30分以内とし、30分を超える遅刻・早退は認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 筋・骨・関節など運動器系や脳・脊髄・末梢神経など神経系の解剖・生理機能を理解し、支援に活用できる。 ② 関節可動域や関節運動などヒトの基本的な動きについて理解し、支援に活用できる。 ③ 日常の諸動作の中で、身体各部の相互関係を理解し、支援に活用できる。 	
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること ・修士課程を修了していることが望ましい。 ・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士等）またはリハビリテーショ 	

	ン科専門医（大学講師以上）が望ましい。
(2)受講者について	
受講対象 （受講要件）	特になし
修了評価（習得 度、研修成果）	筆記試験に合格する（筆記試験は60分。記述式試験。50問程度、 100点満点中60点以上で合格）
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置 基準）	30名 30名に対し講師1名、ファシリテーター1名配置する。
開催場所（都道府 県）	愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年2月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 桜華会館 (愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2)
	②
	③
(2) 講師 阿部友和 (理学療法士・工学修士)	
担当、氏名及び略歴	大阪電気通信大学大学院医療福祉工学研究科修士課程修了 修士 (工学)
	日本体育大学健康医療学部非常勤講師
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	愛知県介護福祉士会事務局 事務局長1名 事務員1名 会長・副会長1名 認定介護福祉士担当理事2名 協力員 (愛知県介護福祉士会会員) 3名
研修の企画運営に関する 諸規程	愛知県介護福祉士会研修運営に関する規程
研修管理責任者職名	愛知県介護福祉士会会長
研修管理責任者氏名	下山久之
機構問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
機構問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
機構問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
受講問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
受講問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
受講問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	愛知県介護福祉士会 研修事業部
受講履歴の管理方法	愛知県介護福祉士会 研修事業部・事務局により受講路歴をパソコンにて管理する。
受講履歴の証明	科目修了ごとに修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
管理担当者氏名	事務局長 池田久恵

認定介護福祉士研修 「生活支援のための運動学」

時間	テーマ	講義・演習等	備考、留意点
8:45~9:00	オリエンテーション		
9:00~9:45	1. 身体表面のランドマークの名称 (担当:阿部)	講義形式と演習 ○基本動作の分析が理解しやすいように、身体表面から触診可能な身体部位を確認する。 ○体表から触診できる、主要な骨、筋の部位を確認し、可能な限り触診を行う。 ・肩甲骨、肩関節、肘関節、手関節、手部、背部、腹部、背柱、骨盤帯、股関節、膝関節、足関節など ●導入講義 15分 ●演習 20分(受講生同士で触診し確認) ●フィードバック講義 10分	テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』 『標準理学療法学・作業療法学 運動学』
9:45~10:30	2. 骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理 (担当:阿部)	講義形式と演習 ○運動のメカニズムを理解するために、骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理を確認する。 ○骨の構造と機能 ・関節の機能、形態による分類、関節の構造 ○筋肉の構造と機能 ・筋肉の種類、骨格筋の形状、骨格筋の収縮、筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋収縮の力学的特性 ○神経系の伝導路 ●導入講義 15分 ●演習 20分(受講生同士で触診) ●フィードバック講義 10分	テキスト『筋骨格系のキネシオロジー第2版』 『標準理学療法学・作業療法学 運動学』
10:30~10:45	休憩		
10:45~11:30	3. 内部器官の運動時の生理 (担当:阿部)	講義形式と演習 ○運動による身体活動変化を理解するために、内部器官の運動時の解剖・生理を確認	テキスト『標準理学療法学・作業療法学 運動学』『シンプル理学療法

		<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動と呼吸 ○運動と循環器系の機能 ○運動と体温調節 ●導入講義 15分 ●演習 20分 <p>(レポート課題を相互に紹介し、自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フィードバック講義 10分 	<p>学シリーズ運動学テキスト』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>11:30~12:15</p>	<p>4. 運動の基本的な力学的考え方 (モーメントなど)</p> <p>(担当: 阿部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身体動作能力の変化に応じた動作介助法を理解するために、運動の基本的な力学的考え方を確認する。 ○基本動作の理解 ・基本動作の種類、身体の運動と重心線、重心と支持基底面、関節周りのモーメント ○基本動作の分析 ・分析の基本、動作の把握、支持基底面の変化、バランス能力の考え方、関節運動と活動の筋、動作の相 ○動作分析の実際 ・寝返り動作の分析、起き上がりの分析、立ち上がりの分析 ●導入講義 15分 ●演習 20分 <p>(レポート課題を相互に紹介し、自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フィードバック講義 10分 	<p>テキスト『日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ』『日常生活活動のキネシオロジー』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>12:15~13:15</p>	<p>昼食休憩</p>		
<p>13:15~14:00</p>	<p>5. 摂食・嚥下における解剖・運動生理</p> <p>(担当: 阿部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○咀嚼、嚥下機能のメカニズムを理解するために摂食・嚥下における解剖・運動生理を確認する。 ○咀嚼運動 ・顎関節の構造と運動、咀嚼運動に関わる 	<p>テキスト『日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ』</p>

<p>14 : 00～14 : 15</p>	<p>休 憩</p>	<p>筋</p> <p>○嚥下運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔の構造、咽頭及び喉頭の構造、嚥下に関わる筋と運動 ・舌の筋、口蓋の筋、咽頭の筋 <p>○嚥下のメカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔期、咽頭期、食道期 <p>●導入講義 15 分</p> <p>●演習 20 分 (レポート課題を相互に紹介し、自分自身の身体ならびに利用者の身体に即し、理解を深める。)</p> <p>●フィードバック講義 10 分</p>	<p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>14 : 15～14 : 30</p>	<p>6. 研修振り返り</p>	<p>●研修振り返り</p>	
<p>14 : 30～15 : 30</p>	<p>7. 筆記試験</p>	<p>●筆記試験 (60 分)</p>	
<p>15 : 30～15 : 45</p>	<p>8. 事務連絡</p>	<p>●結果発表の方法、今後の研究の流れ等</p>	